

# 「地域活性化を考える座談会」が開催されました



最後に知事から、この「『対話と実行』座談会」で伺ったお話の中には、今後の政策にそのまま材料として反映させていきたい、あるいは研究をさせていたいただきたいという課題もいくつもあつた、今後の県政に活かさせていただきたいと述べられました。参加者との意見交換の主な内容は次のとおりです。また、高知県のホームページにも掲載されています。

<http://www.pref.kochi.jp/~kensei/zadankai/index.htm>

吉村哲也さん

(高知県商工会青年部連合会)

現在、商工業者は景気が悪い中で大変苦労されているという状況があるが、補助金などについて、制約が多く、活かされていくという状況で、間口を広げてほしい、若手経営者の中で、地域の経済を引っ張っていくけん引役が少なくなっているため、資質を向上させるための研修の機会がほしい。

**知事** 現在策定している産業振興計画の中で「生産から販売に至る各段階で、ハード、ソフトの多様なメニューをパッケージ化した総合補助金を創設」とあり、地域の支援という観点から、できるだけ間口を広くという方向で議論を進めている。

若手経済人の研修の機会について

では、ニーズに添えていきたい。

山本高裕さん(農業)

最近、重油の価格高騰に伴って、重油に代わるボイラーなどの装置に対する施設園芸原油高騰緊急対策事業費補助金ができたが、町内で最低3人以上いないといけないという条件があり、自分1人しかいないという状況もあり町内の園芸農家は困っている。

町では、ナシの栽培が盛んだが、捨てられているものが多いため、県でも加工に向けて取り組んでいるようだが何とかが早く、どうにかできないのか。

知事は農業に関してどういう考えを持っているか聞かせていただきたい。

**知事** 重油価格高騰対策について、3人以上という要件は少し高い

ハードルのようで、地域によっては不満を聞くが1人でよいとなると、個人の資産形成に資するということになるため、今すぐは対応できない状況である。

ナシについて、ハネ物になったものを地域で加工して売っていくというやり方もあると思う。県外に売っていくとなると、上手に利用する方法としてユズのように加工用のものを作るといったことが必要になってくるかもしれない。

農業とりわけ園芸作物というのは、高知の主力の中の主力だと思っている。都会における売り込みであるとか、途中の流通段階であるとか、最終的な売り先については多様化できるような戦略づくりを行っていただきたい。

正木一路さん

(伊野製紙工業会会長)

近頃の大暴騰が、原材料でも燃料でも起こり、本州や北四国の競合する製紙会社と比べて、県内の製紙業者は選択できる対応策をほとんど持っていない。本州のほとんどの会社は天然ガス化が進み、北四国でも、坂出に大きな天然ガスのサテライトができたので、これから天然ガス化が進んでいくかと思うが、高知は当面の間、何の選択の余地もなく、油を買うしかない。もう一度油が高騰すれば、圧倒的な競争力の差が出る。一企業ではどうにも対応できるような問題ではなくなっている。

また現在、町で進んでいる水質改善対策も、国土交通省が「清流ルネッサンスII」というプロジェクトで、もう随分昔から建設計画に

は入っているが、なかなか進捗が遅く、またできあがれば最終処分を担うコストについても大きな負担がかかってしまうという不安を抱えている。

**知事** 原油価格高騰という逆風が弱まりつつあるが、本県は、特に原材料や油といった問題について、逃げようがないという、他の県でも類例を見ないような状況なのだろうと思う。おそらく20年、30年くらい前からずっと対応していかないと、いけなかった根本問題なのだろうと思う。今後に向けて、課題を整理し、県として最も逃げようのない戦略を構築していく必要がある。

森岡健一郎さん

(いの町区長連合会会長)

町政へ意見や地域で町の配付物を配布したり周知などを行っている。最近では、高齢者や子どもが見守り役等も加わり、非常に幅広い取組が必要になっている。私は、地域で地域力を高め、ボランティアが活性化することによって、県内全域で地域の活性化が進むのではないかと考えている。熱心に取り組んでいる地域について、県がいろいろ機会を紹介したり、表彰したりして、地域で皆さんが区長をやりたい、お世話をしたという気持ちになれば、県全体が活性化するのではないかと。介護保険については、市町村ごとに負担金が決まっているが、広域で、介護の取組をすれば、負担金・人件費等についても、改善ができれば、負担が軽くなるのではないかと。

**知事** 高齢化や、地域、地域の子ど

もが非常に孤立をしているのではないかと、地域をつなぐを取り戻す仕組みづくりが非常に大切である。地区で一生懸命さまざまな活動に取り組まれているので地域での助け合いや、見守り活動をされているところを、例えば顕彰したり、モデル事例として紹介したりといった取組を行っていくべきではないかと思う。

介護保険は、財政単位を大きくしていくことは、大きな課題であり、まだまだ見直さないといい問題がたくさんある。都会で通用するいろいろな必要規制が田舎では通用しない点もたくさんあるので、国にも働きかけたりして、一生懸命やってみよう。

細川治雄さん

(仁淀川漁業協同組合総務部長)

仁淀川は、大きな財産であり、水辺環境や水質も良いので、もっと魚がたくさんいれば、さらに交流人口が増大し、地域の活性化にもつながるといえるような思いである。

アユがここまですべて減少したのは、様々な要因の中で、特に砂利の採取によって、産卵場である下流域が砂状になり、良好な産卵場所が失われたということである。県からは、平成21年度をめぐりに、砂利採取の禁止の方向で検討するということ答弁がなされているので、是非禁止していただくように要望する。

またウナギの稚魚であるシラスウナギの採捕について禁止するか、採捕量を厳しく制限していくかというような策を講じてほしい。